

コンサルタントが、生涯年収を最大化する重要ポイント

～ 独立するポイントと、転職時期の見極めを ～

■ 企業から求められるインディペンデント・コントラクター(IC)

～ IC は、時間の制約に縛られず、通常の雇用契約よりも高額報酬が期待できる ～

フリーのコンサルタントや IT エンジニアの方は、IC とも呼ばれています。

IC (Independent Contractor) とは、**専門分野に関する高度な技能や知識を備え、業務単位での請負契約**を複数の企業と結んで仕事を行うフリーエージェントです。アメリカを中心に世界中で確立されているワークスタイルで、昨今の経済事情から雇用制度の大きな変革が迫られる日本でも普及し始めています。

企業が抱える技術的・経営的課題に対して、高度な専門性を発揮して解決策を提案し、実行することが IC の仕事です。企業にとっては、自社内で調達が困難な高度な専門性を有した人材を調達できるほか、案件単位での契約となるため優れたコストメリットが得られます。

また IC 側にも、従来の雇用形態とは異なり**時間の制約に縛られないこと**や、IC としての請負契約では**通常の雇用契約よりも高額報酬が期待できる**ことなど、さまざまな点でメリットがあります。

以下は、弊社の過去の実績や市場調査等から、IC のレベルを 5 つに分類したものです。

< IC の各レベル想定年収イメージ >

LV 5 : 年収想定 3,000 万円

LV 4 : 年収想定 2,500 万円

LV 3 : 年収想定 2,000 万円

LV 2 : 年収想定 1,500 万円

LV 1 : 年収想定 1,000 万円

■ IC の「旬^{しゅん}」として活躍できる年齢は？

～ 実は 20 代後半から 40 代後半までと短い ～

双方にメリットがあることからニーズが高まりつつある IC ですが、**双方の希望する条件がマッチングする時期は、**

およそ 20 代後半から 40 代後半までと比較的短い期間に限られます。

自社コンサルタントを含め、1,500 名以上のフリーコンサルタントを抱える弊社が集計した統計調査によれば、50 歳を境に IC としての市場評価は下がる場合が多く、双方の希望する条件がマッチングしにくくなります。

■ IC としての需要ピークは 45 歳前後

～ 「市場評価係数」と「アイドルタイム係数」を知ることで見えてくる ～

IC には、企業が自社内では調達することのできない高度な専門的知識や技術が要求されます。知識や技術の最先端は常に更新されており、いつまでも同じ知識や技術だけで専門性を保てるわけではありません。

この点、IC の持つ技能を企業が自社調達できるようになった時点で、IC の存在意義は薄くなってしまいます。そのため IC は、常により専門的で、より市場のニーズが高い技能を習得し続ける必要があります。

このような背景もあり、IC としての需要のピークは、能力によりますが 45 歳前後で、40 代後半になると下降して行きます。 具体的には、弊社の IC レベルレイヤー基準で Lv1 から Lv3 にあたる方は 46 歳、Lv4 から Lv5 にあたる方では 49 歳を目処に、下がり始めます。

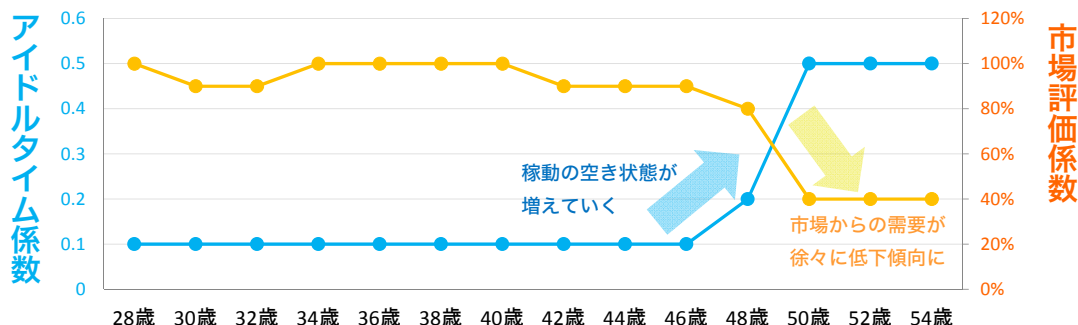
LV 1 ～LV 5 の年齢・年収・市場評価係数

年齢		28歳	30歳	32歳	34歳	36歳	38歳	40歳	42歳	44歳	46歳	48歳	50歳	52歳	54歳	
市場評価係数		100%	90%	90%	100%	100%	100%	100%	90%	90%	90%	80%	40%	40%	40%	
アイドルタイム係数		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.5	0.5	0.5	
LV5	IC旬ピーク	49歳	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	94%	91%	
	年収	3,000万円	2,700	2,430	2,430	2,700	2,700	2,700	2,700	2,430	2,430	2,430	1,920	590	570	550
	月収	MAX 225万円	225	203	203	225	225	225	225	203	203	203	160	49	48	46
LV4	IC旬ピーク	49歳	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	94%	91%	
	年収	2,500万円	2,250	2,030	2,030	2,250	2,250	2,250	2,250	2,030	2,030	2,030	1,600	490	480	460
	月収	MAX 188万円	188	169	169	188	188	188	188	169	169	169	133	41	40	38
LV3	IC旬ピーク	46歳	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	96%	92%	88%	85%
	年収	2,000万円	1,800	1,620	1,620	1,800	1,800	1,800	1,800	1,620	1,620	1,620	1,230	370	360	350
	月収	MAX 150万円	150	135	135	150	150	150	150	135	135	135	103	31	30	29
LV2	IC旬ピーク	46歳	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	96%	92%	88%	85%
	年収	1,500万円	1,350	1,220	1,220	1,350	1,350	1,350	1,350	1,220	1,220	1,220	920	280	270	260
	月収	MAX 113万円	113	102	102	113	113	113	113	102	102	102	77	23	23	22
LV1	IC旬ピーク	46歳	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	96%	92%	88%	85%
	年収	1,000万円	900	810	810	900	900	900	900	810	810	810	620	190	180	180
	月収	MAX 75万円	75	68	68	75	75	75	75	68	68	68	52	16	15	15

※ 各年齢の年収は、各レベルの年収想定額に市場評価係数、アイドルタイム係数を考慮して試算しています。

また、「市場評価係数」が下がり、「アイドルタイム係数」が増加する傾向にあります。

年齢による市場評価係数・アイドルタイム係数の推移



「市場評価係数」とは、年齢に対しての雇用市場における評価を係数として設定したものです(市場評価係数が下がることは、受注できる案件の数も減少することを意味します)。統計表では **45 歳**を基準としており、後述するアイドルタイム係数とレベルレイヤー毎の想定年収を掛け合わせることで各年齢における IC の想定年収が算出できます。統計表では **45 歳**を境として緩やかに下降し始め、**50 歳**を超えるとピーク時の **4 割**に満たない数値となっていることがわかります。また、市場評価係数が下がることで、受注できる案件の数も減少します。

「アイドルタイム係数」とは、年齢に対して見込まれるアイドルタイム（無作業時間）の発生を係数として設定したものです(係数が上がれば上がるほど、プロジェクト参画していない空白時間が増えることを意味します)。IC の仕事は案件単位で結ぶ請負契約によるため、安定した収入を得るには複数の企業と継続的に契約を結ぶ必要があります。

一般的なイメージとして、**40 代以降、管理職に相当する年齢に差し掛かると、新しい技能を習得することよりも、マネジメント能力を発揮することが期待されるようになります**。IC の市場評価係数が 40 代半ばを境に下降していくのも、**高度な専門性を期待する IC というワークスタイルと、管理職のイメージが強い 40 代以降の年齢層が噛み合わない**ためです。

もちろん、IC にマネジメント能力を期待している企業や、個々人の能力を評価基準として年齢を考慮しない企業からは依然として需要があります。また、Lv1~Lv3 の IC よりも Lv4、Lv5 にあたる IC のほうがピークの年齢が高くなるように、より高度なスキルを身につけることでピークを長く維持することも可能です。

■ IC のキャリアストーリー

市場評価係数やアイドルタイム係数が指し示すのは、50 歳以降の IC 需要が少なくなるということです。需要が減れば案件に結びつく機会も少なくなり、収入も減少します。

そこで弊社が提案するのは、IC としての旬の時期に一生分の賃金を稼ぐというキャリアストーリーです。所持する技能レベルや受け持つ案件数にもよりますが、IC の想定年収であれば 20 代から 40 代までの期間に一生分の賃金を得ることは十分可能です。

そのため、上記表やグラフを参考にいただき、**IC になるタイミングを見極めて独立し、独立後、IC のピーク時期にしっかり稼働するという戦略が、生涯年収を最大化する重要知識**です。

こうした働き方が、IC としての旬を生かしたキャリアストーリーの一つと言えます。

もし希望する対価が得られる案件に就けるかどうか不安があるようであれば、**ニーズが低下し始める 40 代中盤以降に正社員への転職を検討するのも一オプション**です。IC としてのニーズは年齢とともに減少していきますが、技術者としての技能や実績までなくなるわけではありません。IC 時代に培ってきた技術や経験、実績があれば、CTO 待遇のポストも問題なく目指せます。転職後の収入は、IC のピーク時の収入と比較すれば下がってしまいますが、安定した収入源として期待できます。収入の不安が解消されたら、早めにリタイア構想を考え始めても良いのではないのでしょうか。

このように、40 代後半のキャリア選択も生涯年収を最大化する大きなポイントとなります。

まとめ：

- IC として活躍できる「旬」の年齢は、20 代後半から 40 代後半まで
- 独立時期は、「旬」の見極めが大切
- IC の「旬」の時期に生涯年収を稼ぐ、というイメージをもちながら稼働する
- 市場評価係数が下がり、アイドルタイム係数が上昇していく 50 歳以降は、IC 以外の選択肢も増やしておく

コンサルタントが、生涯年収を最大化する重要ポイント

発行 : 2015年4月1日

発行者 : インترلープ株式会社

URL : <https://www.intloop.com/ic/>

※ 本レポートを無断で複写、複製(コピー)、引用することは著作権法上での例外を除き禁じられています。また代行業者等の第三者に依頼してWEB上で公開するなどすることは、たとえ個人の利用であっても一切認められていません。